

2020年 AIFA 審判委員会の課題とその取り組み

AIFA審判委員会委員長 宮下幸吉

【 はじめに 】

2020年度がスタートしました。しかし、昨年度末から続く新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、Jリーグ再開未定などサッカー界も大きな影響を受けています。我々審判委員会としましては新規4級・3級認定講習会の中止、開幕に向けての各種研修会等の中止や延期など、委員会にかかわる事業が完全に停止しているところです。各種大会等の再開見通しがたたない状況ですが、いつ再開されてもベストの状態がスタートできるように準備をお願いします。これまで同様に「楽しく見ごたえのあるサッカーを支えるのは私たち審判員である」ことを誇りに、頑張っしてほしいと思います。

さて、2019年の出生数が86万人と2018年に比べ5万人減少する中、サッカー人口の減少も懸念されます。そこで今後の情勢を見据え、審判委員会の現状把握・課題とその取り組みについて以下のように考えています。審判委員会がますます発展できるよう皆様のご支援とご協力をお願いします。

【 現状把握・課題、取り組み 及び 目標 】

1 登録審判員



<現状把握・課題>

2011年9545人の登録審判員数が2020年8985人と約500人減少している

<取り組み>

- ・審判員の魅力を伝える機会を増やす
- ・2種、大学連盟はもとより全ての地区種別において審判員の発掘を推進する
- ・サッカーファミリー全体に対して更なる審判への理解を深める

<目標数値>

2020年度中に審判員登録数を9500人

2 女子審判員



<現状把握・課題>

JFAによる「なでしこリーグのプロ化、地域女子大学リーグや女子U-15の立ち上げ等」が進められる中、審判員不足が解消できていない

<取り組み>

- ・4級認定講習会において女性審判員の活動推進依頼を行う。また、女性対象の4級認定講習会の開催をすすめる。
- ・女子委員会との連携強化を図り、女性審判員の理解と活動推進を行う
- ・女子チームに出向いての研修会や講習会を行う

<目標数値>

2020年度中に女子派遣審判員登録数を10名にする

3 アカデミー組織



<現状把握・課題>

2016年に組織して成果を上げてきたものの、研修会への参加者数減などやや停滞感がある。

<取り組み>

- ・組織の活性化を図るために、各カテゴリーのねらいに即した担当者を配置する。
- ・審判指導者のカテゴリー分けを廃止し、多くの研修会や指導の場に参加できるようにする。
- ・若手審判員の発掘と育成を各カテゴリーの目標に置く。

<目標>

日本一のアカデミー確立を目指す